



Title	阪大法学 59巻 総目次
Author(s)	
Citation	阪大法学. 2009, 59(6)
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/55340
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

論 説

						号	頁	通頁
派遣先による派遣労働者の直接雇用								
—正すべき誤解—						小鳩典明	一	一
修正期に至るEUの情報基盤政策（一）						田中規久雄	二一	二二
背任罪における任務違背（背任行為）に関する一考察（一）						品田智史	一〇一	一〇一
平等保護における動機審査の意義						中曾久雄	一五三	一五三
会社分割と事業譲渡規制の類推								
—商号続用責任を中心として—						山下眞弘		
破産者死亡の場合における破産財団の範囲								
—自由財産と新得財産の処理に関する一考察						藤本利一 神川朋子	二	二
背任罪における任務違背（背任行為）に関する一考察（二・完）						品田智史	二三	二三
							二四七	二四七
							二六五	二六五

「科学的經營管理」運動とナチズム			
—DINTAからドイツ労働戦線へ—	小野清美	三・四	五
社会資本、信頼と民主主義	河田潤一	三・四	六七
民事司法と民主主義	池田辰夫	三・四	一〇七
採用の自由とその制約	小鳩典明	三・四	一二五
—求められる慎重な議論—		五八七	
汎スラヴ主義と露土戦争			
—大改革後ロシアの保守的ジャーナリズムにおけるナショナリズムの諸相—			
安保条約と吉田外交	竹中 浩	三・四	一五五
—豊下檜彦『安保条約の成立』を読む—	坂元一哉	三・四	一七九
大阪帝国大学設立の政治過程	滝口 剛	三・四	二一五
—大阪財界と浜口雄幸内閣—	滝口 剛	三・四	六七七
米国連邦民事訴訟規則におけるE—ディスカバリー規定の導入とその現状	藤本利一	三・四	一四一
経済政策提言と小泉政権期の経済政策	上川龍之進	三・四	二六七
戦後アメリカ対中政策の起源	七二九		
—「二つの中国」政策の形成過程—	高橋慶吉	三・四	三〇一
		七六三	

修正期に至るEUの情報基盤政策（二・完）	田中規久雄	五	一	七九七
一一〇〇五年総選挙以前における小泉政権下での予算編成（一）	上川龍之進	五	六七	八六三
——官邸主導の予算編成はどこまで実現していたのか				
民主主義のもとでの司法審査				
——権限アプローチの構築に向けて				
企業の弁護士役割観は変わりつつあるのか				
——弁護士業務に関する三つのアンケート調査から				
一一〇〇五年総選挙以前における小泉政権下での予算編成（二・完）	福井祐介	六	九三	八八九
——官邸主導の予算編成はどこまで実現していたのか	上川龍之進	六	九三	八八九
商標の機能としての安全性保証機能（二）				
——知的財産法と消費者法の交錯の一場面	勝久晴夫	六	一	一〇三五
「公法」におけるコントロール概念（二）				
——ドイツにおけるコントロール概念の展開	柴田堯史	六	八三	一〇八三
長期的効果を有する兵器の使用と均衡性の原則				
——「予測される(expected)」——の解釈を中心	仲宗根卓	六	一〇五	一一三九
		一一二七	一一六一	

特別寄稿

オバマ政権の核軍縮・核不拡散政策	黒澤 満	二	九五	三二九
------------------	------	---	----	-----

判例研究

未決拘禁者が購読し得る新聞紙種の制限が違法とされた事例	横内 恵	五	一二三	九一九
-----------------------------	------	---	-----	-----

翻訳

国家と私人による公共の福祉の具体化	ヤン・ツィイー・コウ	一	一八三	一八三
-------------------	------------	---	-----	-----

ドイツにおける基本権ドグマーテイク

フイリップ・クーニッヒ 松本和彦・高田倫子／共訳	高橋明男／訳	一	一一九	三四三
-----------------------------	--------	---	-----	-----

ヨーロッパ法がフランス刑事法規範に与える影響

幡野弘樹・足立公志朗／共訳 ミケーレ・パーパ 松田岳士／訳	カロリーン・デュバルク	二	一三九	三六三
-------------------------------------	-------------	---	-----	-----

刑法における比較法研究の意義

五	二	一一九	三六三	一四三
一四三	九三九	一一九	三四三	九一九

資料

法律家の新しい社会的役割

—日・韓・中の比較と連携可能性—

中国法から見た日本法の透明化

—特定領域研究「日本法の透明化」国際民事

訴訟法班・国際金融法班 合同シンポジウム

洪三成
張賢完
大澤京光
大東恒夫
川元元
松毅

二
一五五
三七九

国際裁判管轄法制に関する中間試案に対する意見

—「日本法の透明化」プロジェクト・国際民事訴訟法班

楊澤
大東
川元
松毅

一六五
九六一

五
二二三
一〇〇九

その他

卷頭の辞

中尾敏充

五

三・四
三三一
七九三
三四
一
四六三

尹景徹教授略歴・主要著作目録